

施設名

いやなが保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「みーつけた！」 1歳児

<テーマの設定理由>

1歳児は、積み木で「〇〇ができた!」、園庭の石の形や色から「これ〇〇みたい!」と見立てて、遊び楽しんでいる。子どもが発する「みーつけた!」という見立て遊びを通して、子どもの想像力や表現力、それを他者と共有する力を一層育むことをねらいとした。

2. 活動スケジュール

- 【4月】テーマ決定、 問いの検討、環境デザインの検討
- 【6月】探究活動の実践/2回
 - ・絵本「はまべには いしがいっぱい」を見る。石を身近な物に見立てて遊ぶ。
- 【7月】探究活動の実践/2回
 - ・七夕の話をきく シフォン布とカラーボールを星に見立てて遊ぶ。
 - ・絵本「まぜてまぜて」絵本「いろいろばあ」を見る。
 - ・2歳児が作った色水をジュースに見立てて遊ぶ。
- 【8月】探究活動の実践/2回
 - ・色水を自分で作り、ジュースに見立てて遊ぶ。
 - ・絵本「つみき」「つみきでとんとん」を見る。積み木を身近な物に見立てて遊ぶ。
- 【10月】探究活動の実践/1回、途中経過をまとめる
 - ・絵本「つみき」を見る。牛乳パックや積み木を食べ物に見立てて遊ぶ。
- 【11月】探究活動の実践/1回、職員・保護者・地域の方に報告
 - ・公園で、どんぐり・枝・葉をみつけて身近なものに見立てて遊ぶ。
- 【12月】探究活動の実践/1回
 - ・絵本「はまべには いしがいっぱい」を見る。石を食べ物などに見立てて遊ぶ。
- 【1月】園庭の片づけ作業
- 【2月】振り返り、記録の整理
- 【3月】まとめ、職員・保護者・地域の方に報告

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 【見立てた素材】
 - ・玉砂利、青いシフォン布・カラーボール、色水、積み木、どんぐり、枝、葉
- 【見立てたものを見せ合う台】
 - ・テーブル、コンテナ
- 【見立てのきっかけになる教材】
 - (絵本)「はまべには いしがいっぱい」 好学社/「まぜてまぜて」 PHP研究所
 - 「いろいろばあ」 えほんの杜/「つみき」 金の星社/「つみきでとんとん」 金の星社
 - (お話) 七夕の話

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・1歳児が「見立て遊び」を十分に楽しめるよう、きっかけの絵本の読み聞かせやお話をした。
- ・その後、保育者の言葉で、子どもたちの経験と見立てた物をつなげることを意識した。
- ・見立て遊びに発展しやすい素材を工夫して提示し、「これ、何に見える?」と問いかけることで、子どもの自由な発想を促した。
- ・子どもが「自分で見つけた」という満足感を持ち、「もっと見つけたい」とい意欲を伸ばせるよう、保育者は「ほんとね、〇〇みたいね」と共感的に応じた。
- ・その発見を友達や他の職員、保護者と共有する場(テーブル)を設け、楽しさが話題となるようにした。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

<園庭の石>

・絵本「はまべには いしがいっぱい」を読んだ後で、園庭の玉砂利をバケツに入れると、子どもたちがおにぎりなどに見立てて遊んだ。初めは、バケツから石を繰り返し出し入れし「いし」「いっぱい入ったよ」と喜んでた。

・子どもが食べる動作をした際に、保育者が「おにぎりみたいね」と声をかけると、「家でおにぎり食べた」と自分の経験を関連付けて話す姿が見られた。2回目の活動では、多くの石から選べるようにした。子どもは平たい石を選び「パンケーキ」と言い、自分のTシャツの絵柄と重ね合わせ見せていた。

<七夕>

・七夕のお話を全体で聞いた後に、保育者が青いシフォン布の両端を持ち揺らして「天の川」を表現し、カラーボールを星に見立てた。子どもたちは頭上を動くボールを目で追い、上下する布から伝わる風を感じていた。また、手を挙げて星に見立てたボールを取ろうとする仕草やシフォン布と一緒に揺らす仕草も見られた。

<色水>

・絵本「まぜてまぜて」絵本「いろいろばあ」を繰り返し読んだ。「まぜてまぜて」を読むときは、保育者が絵本を揺らして混ぜることを表した。「いろいろばあ」では、「〇〇いろ～！」と友達と声を合わせると、色が混ざるように読んだ。その後、2歳児の色水遊びを間近で見たことで刺激を受け、色水をジュースに見立てて遊んだ。2歳児に「何の味が飲みたい？」と聞かれると、紫色の色水を指さして「ブルーベリー」と答え、友達と飲むまねをして満足そうにしていた。

・色水遊びの2回目では、「ん、ん」と声を出して自分で作りたい意思を示した。ヨウシュヤマゴボウを入れたビニール袋を揉み、初めての素材で色水を作った。友達の問いかけや、保育者が「おいしそうなブルーベリージュース」と言葉を添えたことで、楽しい雰囲気の中で経験することができた。

<積み木>

・絵本「つみき」を見て、積み木が崩れる場面を喜び、自らも積んでは崩すことを繰り返し楽しんだ。

・次に、見立て遊びへの発展をねらい、「つみきでとんとん」を読み聞かせた。積み木でキリンが出来上がる場面では、「キリン！」と立ち上がって喜び、他のページでもキリンを探す姿が見られた。

・しかし、その後の積み木遊びでは、前回と同様の積んでは崩すことを楽しむ姿が中心で、見立て遊びに発展する様子は見られなかった。

<公園で>

・どんぐり、石などの自然物を拾い、虫や食べ物などに見立てて遊んだ。見つけるのを楽しみ、言葉にならなくても、子どもは「〇〇みたい」を指差しなどのジェスチャーで表そうとする姿が見られた。



石の見立て遊び



天の川と星



2歳児が作った色水



色水ジュース作り

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

・子どもが見立て遊びを楽しむためには、保育者自身が繰り返し見立て遊びを楽しみ、その面白さを伝えていくことが大切であると感じた。その中で子どもが「面白い」と感じて発した言葉への共感の積み重ねが、保育者とのつながりを深め、子どもの探究活動へと発展すると気づいた。

・活動の繰り返しや年上児の姿に触れることが、1歳児にとって新しい遊びへのきっかけとなり、好奇心を引き出す効果があると気づいた。また、絵本を繰り返し読み聞かせたり、見立てに使う素材を手にとれる場所に置いたり、その日の活動を話題にすることで、子どもたちは自分の生活と結び付けて思いを巡らせていると感じた。

・石を自分で選ぶことにより、「自分が選んだ石」という思いが生まれ、他者に見せたい気持ちにつながった。共有の場（テーブルやコンテナ）で自分の体験を自分で選んだものを見せることで、ほかの職員からも声をかけてもらい、子どもは嬉しそうにし、会話の広がりにもつながった。

・色水を自分で作る体験では、「おいしそうなブルーベリージュースを作りたい」という思いをもち、とても積極的に取り組んでいた。ブルーベリー発祥の地である小平市にある当園は、「ぶるべー」などに親しむ活動を行っている。これにより、子どもがブルーベリーを身近なものと感じている。

・見立て遊びの活動をしていく中で、子どもに保育者が共感するという気持ちが通じ合う体験を重ねることが、子ども同士が気持ちを共有する力の土台になったと感じた。